



Keiken village

目的 消滅可能性地域を食い止める

時代背景 消滅可能性都市（2040年に20代～30代の女性が現在の半以下になる）に指定された地域は896箇所
原因は大きく2つ <東京一極集中><少子化>
その他 農地の後継者が減少
子供の遊ぶ場の減少、限定化

コンセプト 施設モデルの提案
共通した課題点からコミュニティの形成や社会問題の解決につながる環境を創る
子どもをターゲットに多くの経験ができる施設を計画する



対象敷地 埼玉県比企郡小川町（埼玉県で2位の消滅可能性が高い）

＜小川町とは＞
町の木：けやき
とり：めじろ
はな：福寿草
特産品：和紙のまち

＜周辺環境＞
山と田園が広がる
市野川と新川が流れる
八和田小学校 / 徒歩15分
八和田保育園 / 徒歩15分

今後のストーリー
消滅可能性都市が減る未来

小川町を対象敷地にする
小川町の素材や伝統を活かした内装・機能
↓
地域の消滅を食い止めることができた
↓
日本全国に広まっていく
小川町を手本に各地域に寄り添った施設が作られていく
↓
消滅可能性都市が減る

